

地域みんなの電力に

イサク事業所どうぼうの家

NPO
と協力 おひさま発電所 完成

宇治市伊勢田町毛語の就労支援施設「イサク事業所 どうぼうの家 Second」（中野亮センター長）で20日、「イサクおひさま発電所」の点灯式が行われ、利用者や関係者が完成を祝った。

障害者支援施設「どうぼうの家」（小倉町西山、石崎啓子施設長）を運営する社会福祉法人「同胞会」（大賀幸一理事長）が開設した。

府内の幼稚園や保育所で太陽光発電施設を設置を進めるN

PO法人「きょうとグリーンファンド」（板倉豊理事長）の活動に共感。昨年度から設置を進めてきた。施設の屋根に63枚のパネルを設置し、10kW規模の発電が可能。NPOが進める「おひさまプロジ



イサク作業所の屋根に設置した太陽光パネル
(宇治市伊勢田町毛語)

エクト」18カ所目の発電所で、障害者支援施設では初めて、すでに稼働しており、

今年4日から電力会社に売電を開始している。収益はすべてNPOに還元し、新たな発電所設置に役立てられるという。

点灯式では、グリーンファンドの阿部系り副理事長が「地域の人手を取り合い、地域の発電所としてできることをやっていたい」とあいさつ。府地球温暖化防止活動推進センターの木原浩貴事務局長がミニ講座を開き、太陽光発電や省エネ活動の大切さを伝えた。

太陽光の電力で、利用者が和紙で手作りしたランプに優しい灯りがともると、会場からは拍手が起った。

「どうぼうの家」の石崎施設長は「障

害者施設、宇治の中心で初めてプロジェクトに関わることができて光栄。これをきっかけに、太陽光発電が市内でも広まっ

てほしい」と話していた。

【山内幸穂】